

平成25年(1月～12月)
関東管内の都市ガス事故発生状況
(一般ガス事業・簡易ガス事業)

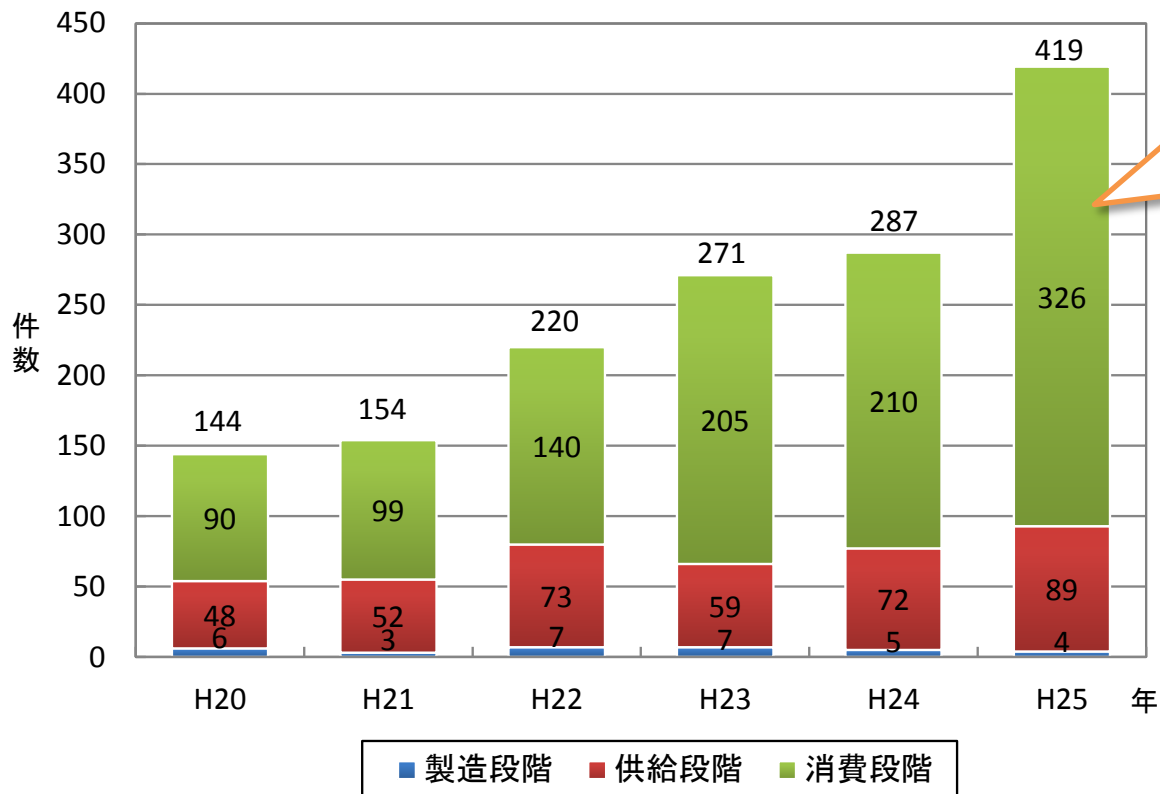
平成26年3月

経済産業省
関東東北産業保安監督部
保安課

事故件数の推移(一般ガス・簡易ガス)

- 平成25年(1月～12月)のガス事故件数は419件(前年から132件の増加)。
- 製造段階の事故が4件(1.0%)、供給段階の事故が89件(21.2%)、消費段階の事故が326件(77.8%)。
- 平成20年からの事故件数は増加傾向にあり、特に消費段階の事故の増加が著しい。

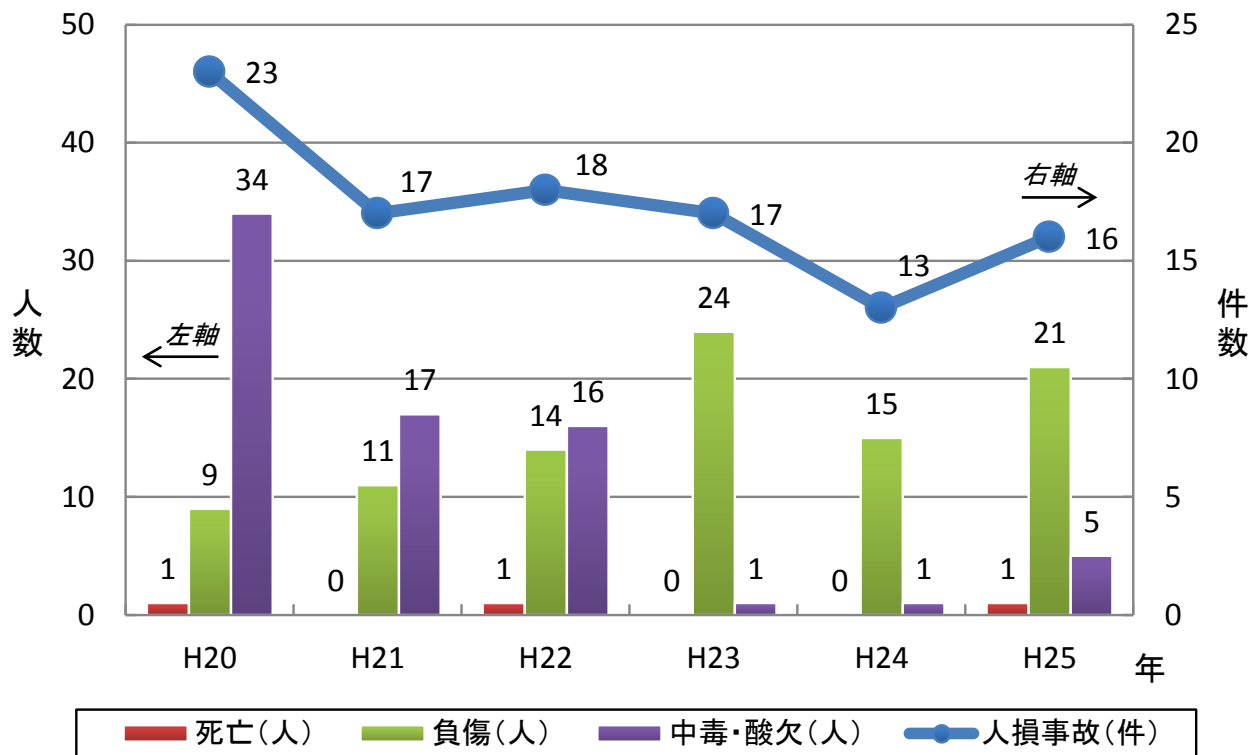
■平成20年からの事故件数の推移



人損事故の推移(一般ガス・簡易ガス)

- 平成25年の人損事故件数は16件、負傷者数は21人、ともに前年に比べ増加。
- 供給段階では、死者1人を含む事故が発生したほか、負傷者も昨年に比べ大幅に増加した(0人→15人)。
- 消費段階では、負傷者数は昨年に比べ減少したものの(15人→6人)、3人がCO中毒になった。

■平成20年からの推移



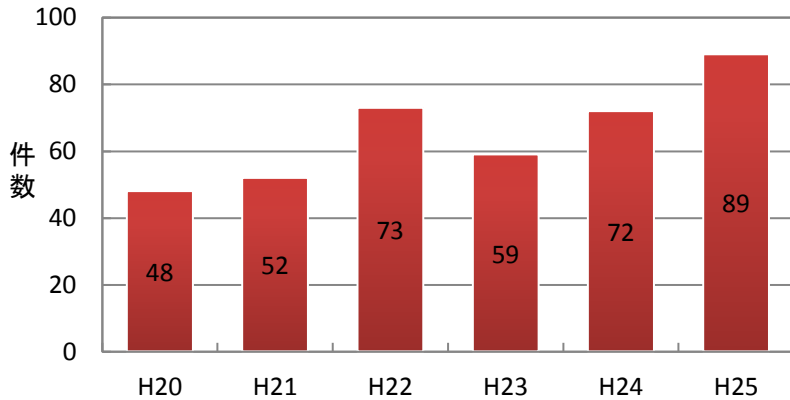
■平成25年の人損事故内訳

	死亡(人)	負傷(人)	中毒・酸欠(人)
製造段階	0 [0]	0 [0]	0 [0]
供給段階	1 [0]	15 [0]	2 [1]
消費段階	0 [0]	6 [15]	3 [0]

[]内は平成24年の人数

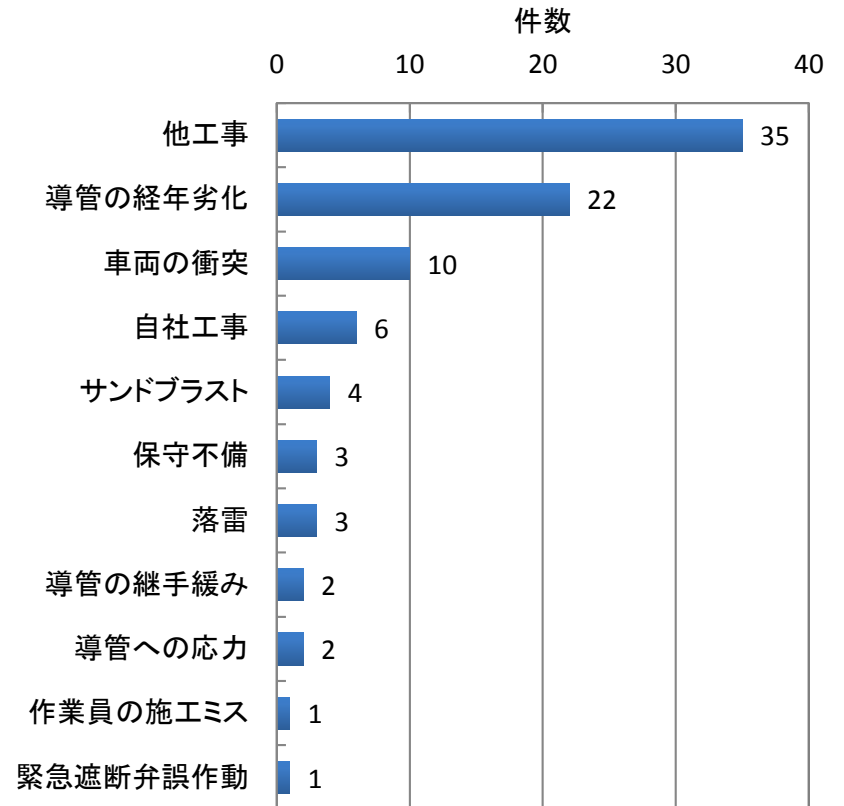
供給段階の事故

供給段階の事故件数推移

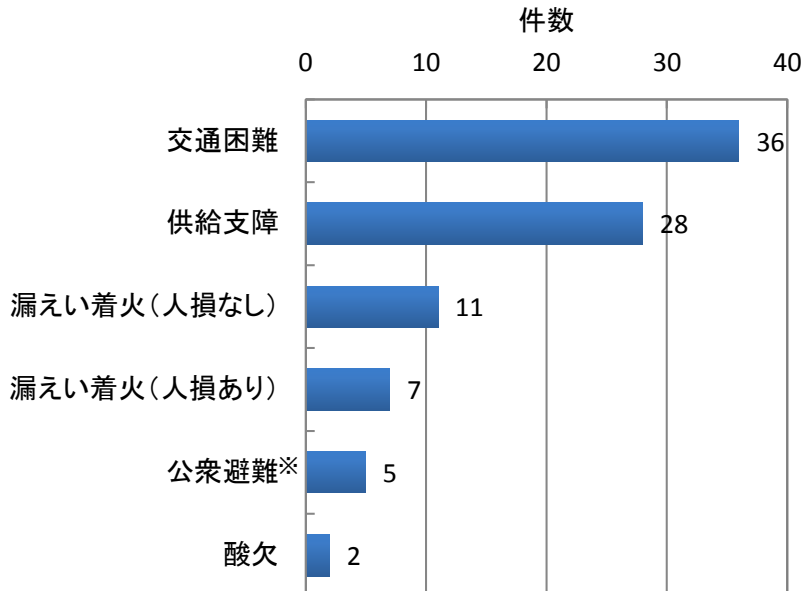


- 事象別内訳では、交通困難が最も多く36件(40.4%)、次いで供給支障が28件(31.5%)。
- 原因別の内訳では、他工事が最も多く35件(39.3%)、次いで導管の経年劣化によるものが22件(24.7%)。

原因別内訳(平成25年:89件)



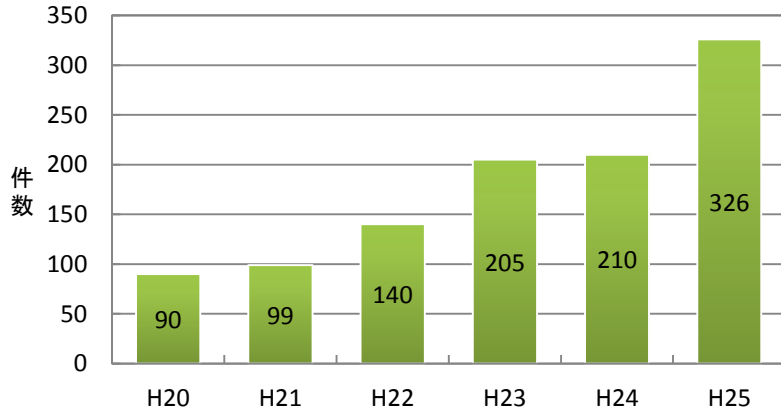
事象別内訳(平成25年:89件)



※避難と同時に交通困難を伴ったものを含む

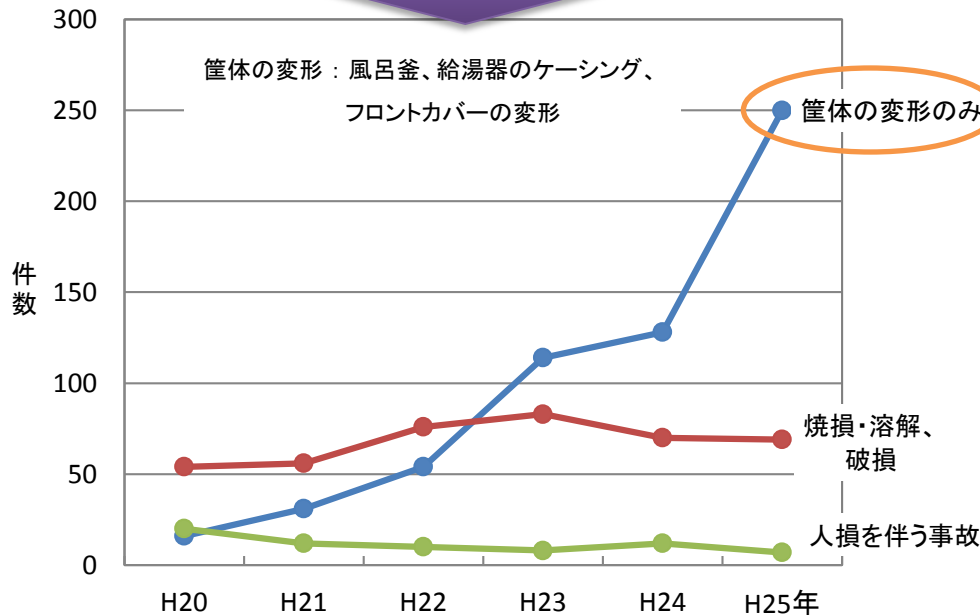
消費段階の事故

消費段階の事故件数推移

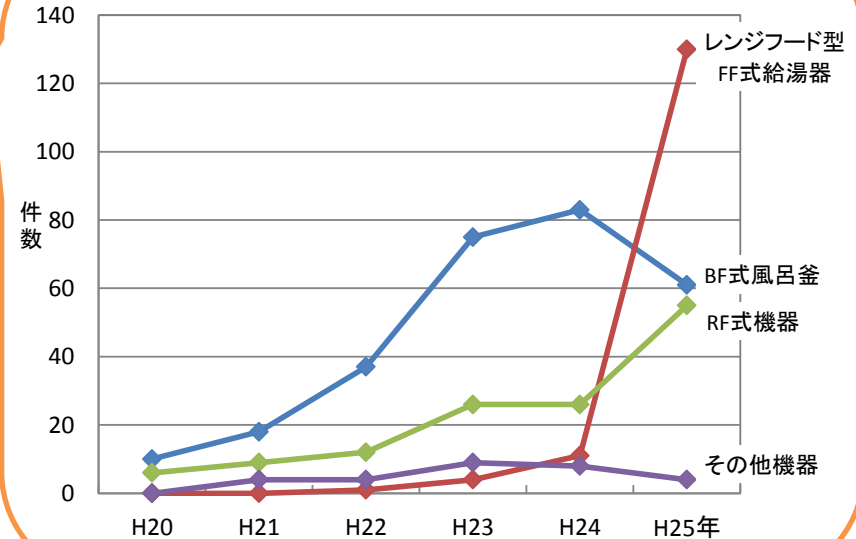


- ここ数年、消費段階の事故件数が毎年増加しているが、この要因は、繰り返し点火操作等による異常着火に伴う風呂釜等の変形事故が多く覚知されるようになったことが大きく寄与している。
- 特に、平成25年は、特別点検が行われたレンジフード一体型FF式給湯器の変形事故が多く覚知された結果、消費段階の事故件数が大幅に増加した。
- 一方で、漏えいしたガスに引火して機器が焼損するなどの事故は、平成23年から減少傾向にある。

内訳

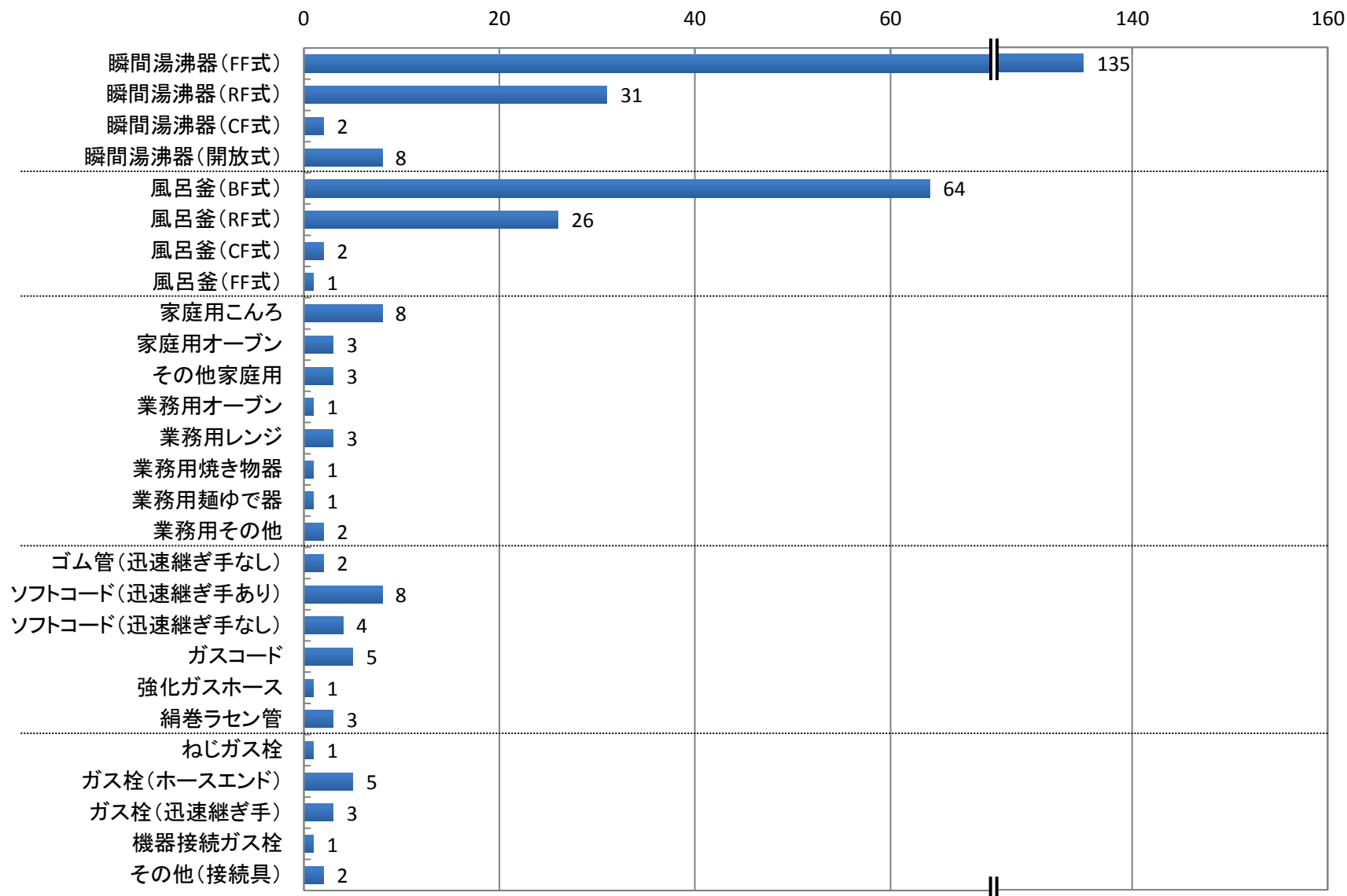


変形機器の内訳



消費段階の事故

■消費機器別内訳(平成25年:326件)



消費段階の事故事例

■ 家庭用こんろ及びその周辺での主な事故事例(平成25年の件数)

✓ 不使用ガス栓の誤開放 (8件)

ガス栓キャップの取り付けが不完全な状態で不使用側のガス栓を誤開放し、過流出安全機構が作動しない程度の微量のガスが漏えいして着火



✓ ゴム管への熱影響 (4件)

ゴム管がこんろ又はグリルに近接することにより熱影響を受け、ゴム管が損傷したことからガスが漏えいして着火



✓ こんろ内部の焼損 (6件)

こんろ脚部が変形して底部が置き台に接触し、煮こぼれ等によってガス通路部が腐食しガスが漏えいして着火したことなど



✓ ガス栓への接続不足 (12件)

ゴム管用ソケットをガス栓に接続する際に、差し込みが不十分であったことから微量のガスが漏えいして着火



- ・こんろへの接続: 5件
- ・炊飯器への接続: 4件
- ・ファンヒーターへの接続: 3件

